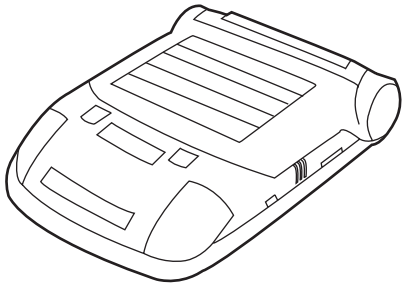


Best One ソーラーレーダー BF-400S/800S 取扱説明書 保証書

この度はベストワンシリーズレーダー探知機をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。本書には取付け及び操作手順が説明されており、正しくご使用いただく為に本書をよくお読みのうえ、ご使用ください。尚、読み終えた後、いつでも見られるよう大切に保管してください。



・ご使用上の注意	ページ 2
・おもな特長	4
・各部の名称	6
・ご使用にあたって	8
・使用初期の充電	10
・レーダー受信機の取付け方法	11
・各スイッチの設定方法	13
・機能用語の説明	24
・本機の受信方法	25
・レーダーまめ知識	26
・トラブルシューティング	28
・仕様	30

ご使用上の注意

注意

- 本製品にはお買い上げの日から1年間の保証がついています。(ただし、内蔵のカドニカ電池、吸盤等の消耗品は保証の対象になりません)
- 万一、製品本体にロット番号シールがない場合は、商品をご使用になる前に弊社へご連絡ください。
- 保証書には、必ず「販売店名」「お買い上げ日」が記入されているか、記載の内容をご確認いただき、大切に保管してください。
- 本製品は、レーダー式(Xバンド・Kバンド)の速度取締機(取締連絡無線350.1MHz、BF-800Sのみ)有効で光電管式、ループコイル式・ワイヤー式等、他の方式による速度取締機には反応しません。
- 取締りレーダーと同一周波数のマイクロ波を使用した機器(下記)周辺で、レーダー受信機が受信することがありますが、これは誤作動ではありません。あらかじめご了承ください。(自動ドア・防犯センサー・車両通過計測器・気象用レーダー・航空用レーダー)
- ナビゲーションシステムからの漏れ電波が、取締電波と同じ周波数の場合、排除できない場合があります。
- 太陽電池の発電量は使用環境(気象条件・駐車中の日照状況等)の影響を受け易く、通常状態よりはやく電池が消耗する事があります。シガープラグからの併用充電を行ってください。

おもな特長

【BF-400Sの特長】

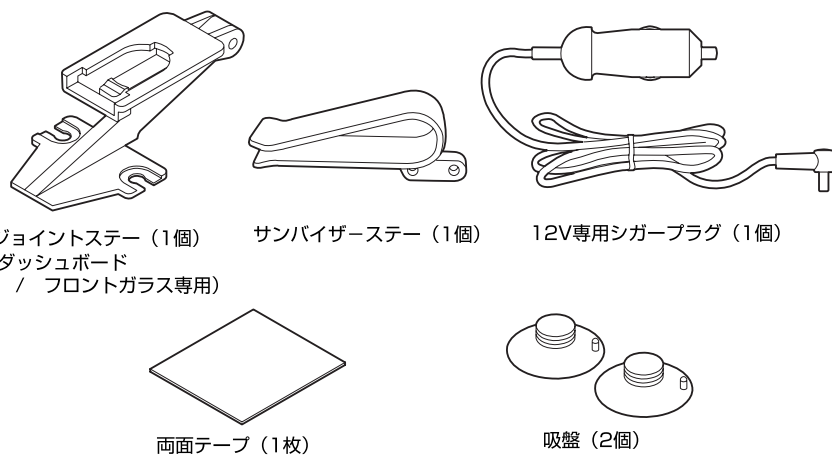
- 本機の充電状況がランプ表示され、一目で確認できるバッテリーチェック機能採用。(P21参照)

【BF-800Sの特長】

- 業界初!! 車両へのイタズラ防止に強烈なフラッシュを放つフラッシュモード機能を採用。(P22参照)
- 警察取締連絡無線(350.1MHz)受信可能。

各部の名称

付属品



ご使用上の注意

ご使用の前に、この「ご使用上の注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、注意事項には危害や損害の大きさを明確にする為に誤った取扱いをすると、生じる事が想定される内容を「警告」・「注意」の2つに分けています。

- 警告**：警告を無視した取扱いをすると、使用者が死亡や重傷を負う原因となります。
- 注意**：注意を無視した取扱いをすると、使用者が傷害や物的損害を被る可能性があります。

警告

- 本製品を分解、改造しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 運転中は、本製品を絶対に操作しないでください。わき見運転は、事故の原因となります。
- 本製品は、運転や視界の妨げにならない場所に取付けてください。又、自動車の機能(エアバック等)の妨げにならない場所に取付けてください。事故や怪我の原因となります。
- 本製品が万一破損・故障した場合は、すぐに使用を中止して販売店へ点検・修理を依頼してください。そのまま使用すると火災・感電・車の故障の原因となります。
- 本製品を水につけたり、水をかけたりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 本製品を医療機器の近くで使用しないでください。電波により医療機器に影響を与える恐れがあります。

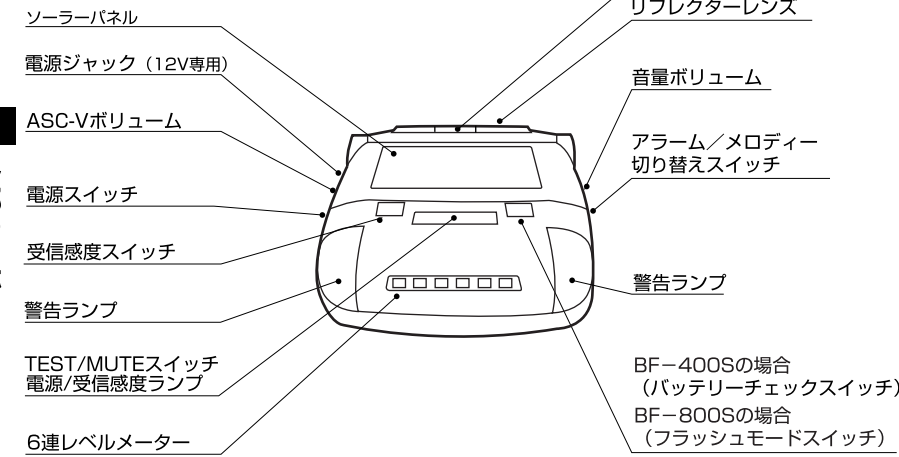
おもな特長

【BF-400S/BF-800S共通の特長】

- スーパーデジタル方式採用によりレーダー波をすばやくキャッチし、受信安定度大幅アップ!
- ソーラーパネル可動方式採用により、サンバイザーへの取付けが可能となりました。
- 6パターンの選べる警告表示モード採用。
- 後方からの電波の受信を識別すると、本機内蔵の後方受信識別ランプが点灯し、ドライバーへ注意をうながします。
- 走行状態に合わせ、受信感度を自動設定するASC-V(オート・センシティブ・コントロール)機能を採用。
- F.A.S(周波数分析システム)採用により、G.P.S(カーナビ)電波による誤作動を極限までカット!
- ステルス・新Hシステム対応。
- ツインアラーム機能採用により2種類の受信音を選択できます。
- 万一、バッテリー不足になっても、シガープラグ(12V)から電源供給できる安心設計。
- フロントガラス又は、ダッシュボード上/サンバイザーに取付け可能なジョイントステーを付属。

各部の名称

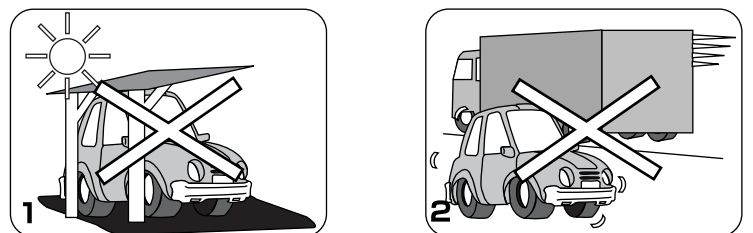
本体



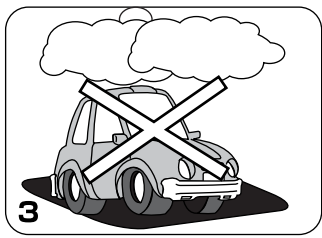
ご使用にあたって

本機は、太陽光をソーラーパネルにあてることによって、自然充電しますが、下記1~4の様な条件下でご使用される場合は、シガープラグコードを接続した状態での使用をお勧め致します。

本機の回路設計にあたっては、通常の使用状況に於いて太陽電池の発電量と回路消費電力のバランスがとれるようになっておりますが、次の様な場合、発電量が不足しチャージサインが表示される事があります。もし、このような症状が現れた場合は、シガープラグコードを使用して内蔵電池の充電をしてください。充電時間は、7時間程度を目安にしてください。



- 1・屋内駐車場・ガレージ等太陽光の直接当たらない場所へ長時間駐車される場合。
- 2・高速道路・交通量の多い道路わき・鉄道の線路わき等、絶えず振動を受けて動作状態になる場合。



3・冬期の雪や梅雨時等、曇りの日が続く日照時間が少なくなる場合。



4・夜間走行の頻度が高い場合。

ご使用にあたって

レーダー受信機の取付け方法

本機は3通りの車両側への取付け方法があります。

①【ダッシュボードへの取付け】 ②【フロントガラスへの取付け】

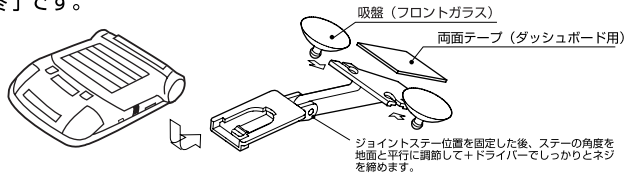
レーダー受信機の取付け方法



- 警告 エアバックの飛び出し場所には取付けしないでください。
- 注意 本機を直接ダッシュボードに設置しないで下さい。炎天下の際、そのまま放置すると本機塗装がはがれることがあります。
- 注意 フロントガラス上面がスモーク処理されている車両に取付ける場合ソーラー充電しません。必ずソーラーパネルが太陽光の当たる所に取付けて下さい。

【取付け方】

まず、ジョイントステーを上図のようにダッシュボード又はフロントガラスどちらかの取付け場所を選び、付属品（吸盤・両面テープ/下図参照）をジョイントステーにとりつけます。車両に固定した後、ジョイントステーを地面と平行に調節してからドライバーでしっかりとネジを締めます。最後に本機を下図のように矢印方向からセットすれば取付け終了です。

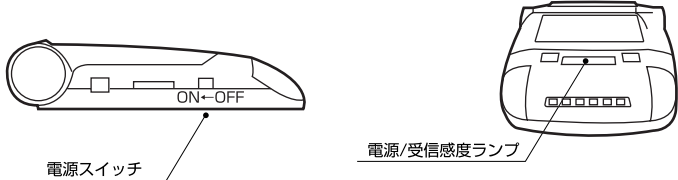


各スイッチの設定方法

【電源のいれかた】

- 1 本機側面にあるスライドスイッチをONにします。電源/受信感度ランプが点滅すれば正常です。（本機に絶えず振動を与えないと、電源が自動的に切れてしまいます。）

各スイッチの設定方法



- 注意 長時間、太陽光が当たらない場所で本機を使用しない場合は、電源を切ることをお奨めします。
- 注意 本機はシガープラグ優先回路を搭載していますので、必ずエンジンをかけるか、電源ジャックを抜いた状態（内蔵電池での作動）でご使用下さい。

各スイッチの設定方法

マニュアル（手動）感度設定のしかた

1. 電源が入っていることを確かめてから受信感度スイッチを押します。”ピッ”とアラームが鳴り電源/受信感度ランプが点滅し、受信感度を選択することができます。

（SH → H → L）の繰り返し 電源投入時はSH

2. P14の表1に従い好みの受信感度レベルを受信感度スイッチを押して選択します。

オート（自動）感度設定のしかた

本機はオート感度になると走行条件に合わせて自動的に受信感度を選択するASC-V（オート・センシティブコントロール）機能を採用しています。

1. 受信感度スイッチを2秒以上押すと”ピピッ”とアラームが鳴りオート感度に設定できます。

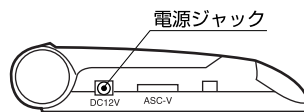
（注）マニュアル感度に戻したい場合は、もう一度受信感度スイッチを2秒以上押すと”ピー”とアラームが鳴り解除できます。

各スイッチの設定方法

まず、最初に充電を行ってください。

出荷時には、検査用予備充電しかされておられません

長い間、本体を使用せず放置しておりますと内蔵電池が自然放電してしまいます。必ず、当社専用シガープラグコード（12V）を使用して、エンジンをかけて充電してください。（電源スイッチON/OFFどちらでも充電できます。）充電時間は7時間程度を目安にしてください。尚、充電が終了しましたらシガープラグを抜いてください。



内蔵電池の寿命について

使用状況・使用環境にもよりますが、おおむね4～5年が目安となります。内蔵電池の寿命に満たない前に内蔵電池の容量が低下する事（メモリー効果）がありますが、その場合は一度完全放電させてから満充電にすると、性能がもどる場合があります。また、内蔵電池はリサイクル可能なカドニカ電池ですので交換の際は弊社サービス部までご連絡ください。

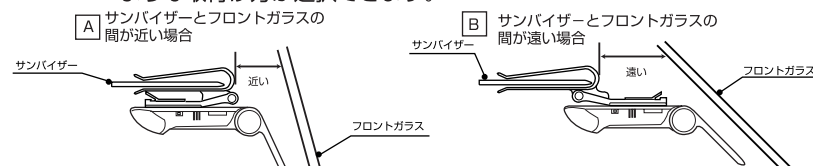
使用初期の充電

レーダー受信機の取付け方法

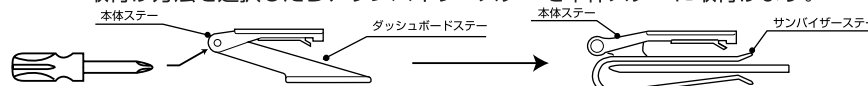
③【サンバイザーへの取付け】

- 警告 サンバイザーへ取付けされる場合、ドライバーの視界の妨げになる場所には絶対に取付けしないで下さい。事故原因となります。
- 注意 フロントガラス上面がスモーク処理されている車両に取付ける場合ソーラー充電しません。必ずソーラーパネルが太陽光の当たる所に取付けて下さい。

【取付け方】車両側のサンバイザーとフロントガラスの位置関係によって、下図のような取付け方が選択できます。



1. まず、ダッシュボードステーをドライバーを使って外し上図のA・Bどちらかの取付け方法を選択したら、サンバイザーステーを本体ステーに取付けます。



2. 上図のようにフロントガラスに当たらないようにソーラーパネル角度を調整したら調整終了です。

レーダー受信機の取付け方法

各スイッチの設定方法

【受信感度スイッチの設定】

本機はマニュアル（手動）操作とオート（自動）操作のどちらかを設定することで、下記に示す走行条件にあった最適な受信感度を選択することができます。

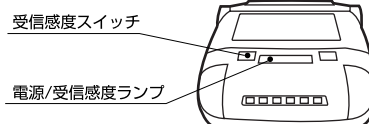


表1

受信感度レベル ランプの色	L（ローモード） 赤色	H（ハイモード） 橙色	SH（スーパーハイモード） 緑色
走行条件	低速走行	中・低速走行	高速走行
走行場所	市街地	郊外	高速道路

受信感度設定別ミュート作動領域

レベルメーター 受信感度レベル表示	1	2	3	4	5	6
L（ローモード） 赤色	警告音が鳴らない。			警告音が鳴る。		
H（ハイモード） 橙色	警告音が鳴らない。			警告音が鳴る。		
SH（スーパーハイモード） 緑色	警告音が鳴らない。			警告音が鳴る。		

* ノーマルシグナルに設定した場合（P18参照）

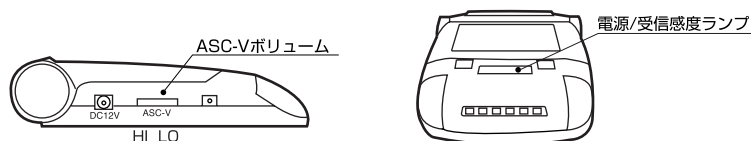
各スイッチの設定方法

各スイッチの設定方法

【ASC-Vボリュームの調整のしかた】

ASC-Vボリュームとは 車の走行振動を利用して駐・停車時の不要な警告音を自動的にカットする為の振動調整用ボリュームです。

- 1 エンジンをかけます。
- 2 本機の電源をいれます。
- 3 ASC-Vボリュームをアイドリングが安定した後HI（高感度）からゆっくりLO（低感度）にまわして電源/受信感度ランプが消えるところに合わせたら調整終了です。



* ディーゼル車の場合アイドリング及び、走行中の識別がうまくできないことがあります。このような場合は、ASC-Vモードが使用できない場合がありますので受信感度レベルの設定はマニュアル感度にして下さい。（P15参照）

各スイッチの設定方法

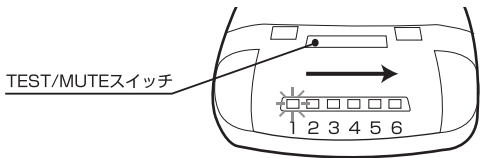
各スイッチの設定方法

【6連レベルメーターによる警告シグナル表示について】

本機は6パターンの警告シグナルを選択することができます。

1. **TEST/MUTE** スイッチを2秒以上押すと”ピピッ”とアラームが鳴りレベルメーターランプが一つだけ点滅します。(初期状態は下図の様に、パターン1に設定されています。)
2. もう一度 **TEST/MUTE** スイッチを押すとレベルメーターランプが、右に移動します。(パターン6の次は、1に戻ります。)
3. お好みのシグナルパターンを選び、他のスイッチを押すと”ピー”とアラームが鳴り設定終了します。

(注) **TEST/MUTE** スイッチを押してから5秒以上何も押さないとその選択したパターンを決定したと判断し自動的に設定終了します。



各スイッチの設定方法

17

各スイッチの設定方法

【6連レベルメーターによる警告シグナル表示について】

G: 緑 O: 橙 R: 赤

レーダー波の強さ	1 ノーマル →						2 リバース						3 エキスパンズ ↓↓↓					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
強	G	■	■	■	■	■	G	G	G	G	G	G	■	■	G	G	■	■
弱	G	G	■	■	■	■	G	G	G	G	G	G	■	G	G	G	G	■
↓	G	G	O	■	■	■	O	O	O	O	O	O	■	O	O	O	O	■
↓	G	G	O	O	■	■	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O
強	G	G	O	O	R	■	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
レーダー波の強さ	4 リバース 1 ←						5 リバース 2 ←						6 パレード →					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
強	G	■	■	■	■	■	G	■	■	■	■	■	G	G	■	■	■	■
弱	G	G	■	■	■	■	G	G	■	■	■	■	G	G	■	■	■	■
↓	O	O	■	■	■	■	O	O	■	■	■	■	O	O	■	■	■	■
↓	O	O	O	■	■	■	O	O	O	■	■	■	O	O	O	■	■	■
強	R	R	■	■	■	■	R	R	■	■	■	■	R	R	■	■	■	■
	R	R	R	■	■	■	R	R	R	■	■	■	R	R	R	■	■	■

各スイッチの設定方法

18

各スイッチの設定方法

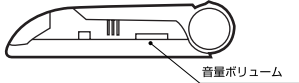
【TEST/MUTEスイッチ・音量ボリュームの調整】

TEST/MUTEスイッチとは

本機がどのように警告するかを確認できるTESTモードと受信中の警告音を消すMUTE機能を兼用したものです。

TESTモードを使用する場合

1. 電源が入っていることを確かめてから**TEST/MUTE**スイッチを押します。(約14秒間アラーム音とレベルメーター/アラームランプ警告表示、ステルス音の確認もできます。)
2. 警告音が鳴っている間に音量ボリュームでお好みの音量に調整して下さい。



MUTE機能を使用する場合

1. レーダー波を受信中、**TEST/MUTE**スイッチを押すとアラームランプは、受信状態のまま、警告音だけをカットします。MUTE状態は、その時受信している電波が無くなると自動的に待機状態に復帰します。

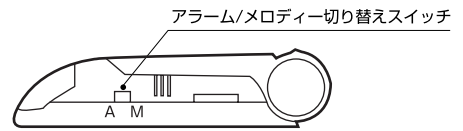
各スイッチの設定方法

19

各スイッチの設定方法

【アラーム音色の設定】

本機にはアラーム/メロディー切り替えスイッチにより、2種類の音色を選択することができます。アラーム音色を聞くには、P19の「TEST/MUTEスイッチの音量ボリュームの調整」をご覧ください。



A (アラームモード) : 電子ブザー (ピーピー音)
M (メロディーモード) : ♪♪♪~

各スイッチの設定方法

20

各スイッチの設定方法 (BF-400Sのみ)

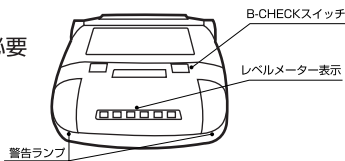
【B-CHECK (バッテリーチェック) スイッチのいれかた】

BF-400Sは内蔵電池の充電状態が警告表示ランプで、確認できます。

1. 本機の電源を入れた状態で、**B-CHECK** スイッチを押します。

レベルメーター表示

★ ■ ■ ■ ■ ■	赤色点灯	充電が必要
★★ ■ ■ ■ ■	赤色点灯	
★★★ ■ ■ ■	橙色点灯	充電が良好
★★★★ ■ ■	橙色点灯	
★★★★★ ■	緑色点灯	
★★★★★★	緑色点灯	



各スイッチの設定方法

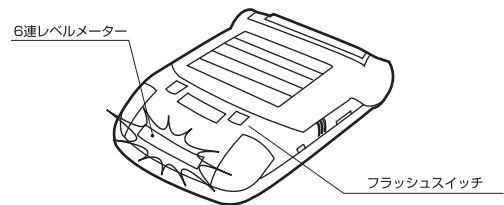
21

各スイッチの設定方法

【フラッシュモード機能について (BF-800Sのみ)】

BF-800Sは、フラッシュモード機能採用により夜間駐車中の車両に強い振動を与えた場合、本体が強烈なフラッシュを放ち車両へのイタズラ防止に効果的な役割を果たします。

1. 電源を入れた状態で **FLASH** スイッチを押します。(ピピッとアラームが鳴り、車を降りてから約5分後にフラッシュモードが待機状態となります。) フラッシュモードを終了させるには、もう一度 **FLASH** スイッチを押します。(ピーと、アラームが鳴り、解除されます。)

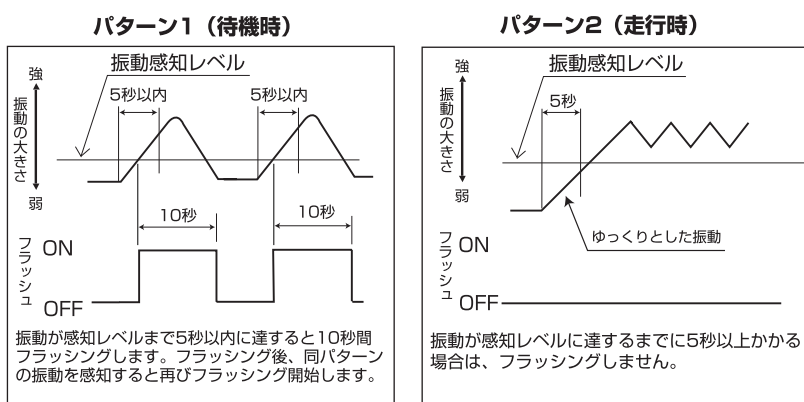


各スイッチの設定方法

22

各スイッチの設定方法

フラッシュモードは振動の微妙な変化を読み取り、フラッシュON・OFFを判別します。



各スイッチの設定方法

23

機能用語の説明

充電サイン機能

内蔵カドニカ電池が充電不足になると、電源/受信感度ランプの点滅と警告音が同時に作動して充電不足をお知らせします。その場合は、付属のシガープラグを差し込んでいただき充電を行ってください。

オートボリュームダウン機能

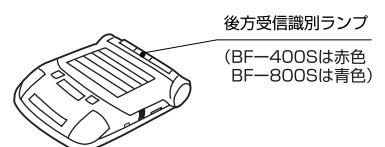
レーダー波を受信開始してから約15秒後に減音します。(受信感度オート設定をした時だけに有効 P15参照)

オートディマー機能

昼夜の明るさの変化を感知して、自動的に警告ランプの明るさを調整します。

後方受信ランプ機能

後方からの電波の受信を識別すると、本機内蔵の後方受信識別ランプが点灯し、ドライバーへ注意をうながします。





後方受信識別ランプ
(BF-400Sは赤色
BF-800Sは青色)

機能用語の説明

24

本機の受信方法

レーダー式 取締り機の 種類	レーダー波 の強さ	警告音		表示ランプ	
		アラーム	メロディー		
オービス (Hシステム) 後方追尾式	遠い(弱) ↓ 近い(強)	ビッピビッ ↓ ビビビビ ↓ ピー	♪ ♪ ♪ ピー	6連レベルメーター P18参照	赤色(フラッシング)
ステルス	—	ピロピロピロ	ピロピロピロ	交互点滅 (赤色)	赤色(フラッシング)
取締り連絡無線 (350.1MHz) BF-800Sのみ	—	ビョッビョッ (約2秒間)	♪ ♪ (約2秒間)	—	赤色(フラッシング)

本機の受信方法

25

レーダーまめ知識

このページは一般に知られている、いろいろな取締り機についての説明です。

レーダー式

ステルス型取締り

代表的な取締り機は三菱電気のRS-720DRですが、最近では電子シャッターの性能を上げたJRC製の装置も導入されています。実際の取締りでは、警察官がリモコンで装置をコントロールする為いろいろな電波の出し方ができます。計測精度をあげる為、一般的には電波を出したままにして、電子シャッターで電波が外に漏れないようにしますが、最近のレーダー受信機は感度が高くその状態でも300メートル手前から受信できてしまう為現在は、至近距離まで取締りの電源自体を落として、電波が出ない状態にする“狙い打ち”的方法が使われているようです。この方法ですと、レーダー受信機の反応は極端に遅れ70～100メートル地点でいきなり受信すると言うケースも想定されます。(この狙い打ちの方法の歴史は古く、ステルス型取締りが導入される随分前から使われる手法でした。)

Hシステム

設置式取締り機の一つで車両測定用の電波が間欠で発信されています。従って従来のタイプのレーダー受信機では、著しく感度がさがります。このシステムはビデオカメラで違反車両のナンバー及び運転者を同時に撮影し専用回線を介して警察本部の大型コンピュータに送られます。受信距離は500メートル前後が一般的ですが電波の分布(間欠波の為)の関係で連続音はやや遅くなります。

パトカー車載式

パトカーの赤色灯部分を一部改良して取締り装置を載せたもので、主に高速道路等で、走行中に後方から取締まる事が多いが、レーダー出力が強い為、500メートル以上からでも受信できます。

移動オービス

ワンボックス後部にオービス装置(レーダー式、光電管式のどちらかを)搭載しています。

レーダーまめ知識

26

レーダーまめ知識

レーダー式以外 (注意:レーダー探知機は反応しません。)

ループコイル式

設置式オービスの一つで、車両測定を道路下や中央分離帯等に埋め込まれた金属探知機によって車両が通過する際速度を測定する方式です。この取締りは電波をださない為本機は反応しません。設置式オービスの場合は事前に表示板がでている事が多いので、見落とさないよう注意が必要です。

LHシステム

Hシステムが電波式なのに対し、LHシステムは、ループコイル式となっています。この取締りも電波は使用しない為本機では反応しません。事前に表示板が出ていることが多いので、見落とさないよう注意が必要です。

光電管式

昔のワイヤー式を進歩させた取締りで、道路上2点間に置かれたセンサーを車両が通過する際速度を測定します。この取締りも電波は使用しない為本機では反応しません。しばしば連絡に350.1Mhzの警察無線を使用している様です。

Kバンドの取締りについて

Kバンド

現在国内において、Kバンドの取締りは行われていませんが、郵政省電気通信局が割り当てた速度測定用周波数に24.2Ghz(Kバンド)があります。近い将来この周波数を用いた取締りが行われる可能性があります。本製品はKバンドも受信できる様設計されています。

レーダーまめ知識

27

トラブルシューティング

次のような場合は、故障ではない事がありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ●エンジンがかかっていない状態で本機に電源ジャックを差し込んでいませんか? → 13ページ参照 ●電源スイッチは入っていますか? → 13ページ参照 ●内蔵電池の初期充電はお済みですか? → 10ページ参照 ●ASC-V感度ボリューム調整がLOになっていませんか? → 16ページ参照
受信しない	<ul style="list-style-type: none"> ●取締り方式は電波式ですか? → 26ページ参照 ●ASC-V感度ボリューム調整は適切ですか? → 16ページ参照 ●音量ボリューム調整がMINになっていませんか? → 19ページ参照
警告音が鳴り続ける	<ul style="list-style-type: none"> ●内蔵電池の残量がなくなっていますか? (チャージサイン) → 24ページ参照

トラブルシューティング

28

トラブルシューティング

オート感度が働かない	<ul style="list-style-type: none"> ●オート感度の設定はお済みですか? → 15ページ参照 ●ASC-V感度ボリューム調整は適切ですか? → 16ページ参照
アラーム又はメロディーが鳴らない	<ul style="list-style-type: none"> ●音量ボリュームがMINになっていませんか? → 19ページ参照 ●ASC-V機能が働いていませんか? → 16ページ参照
充電できない	<ul style="list-style-type: none"> ●充電環境は満たされていますか? → 21ページ参照 ●充電電池にメモリー効果が発生していませんか? → 10ページ参照 ●充電電池が寿命となっていないですか? → 10ページ参照

トラブルシューティング

29

仕様

電源電圧	2.4V (高容量カドニカ電池)
電池容量	250mAh
充電入力電圧	D.C 12V
消費電流	待機時 1mA以下 (無振動時) 最大時 80mA以下
受信周波数	Xバンド (10.525GHz) Kバンド (24.200GHz) 取締り連絡無線 (350.1MHz) (BF-800Sのみ)
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
検波方式	FMトラッキングタイムカウンタ方式
動作温度範囲	-10℃～+80℃ -5℃～+80℃ (充電時)
本体寸法	W70 × L103 × H22.5 / mm (Hはステー取付け部及びリフレクター突起部を除く寸法)
重量	140g (BF-400S) 145g (BF-800S)

仕様

30